

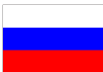
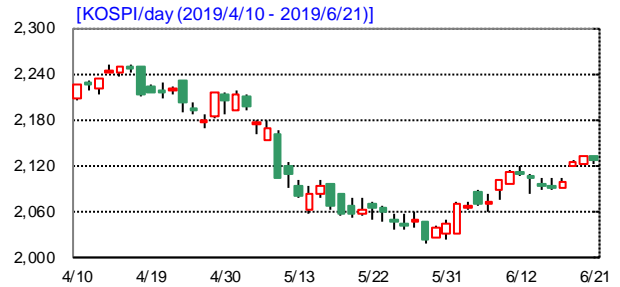


【韓国】 総合指数は週間で1.4%高と3週続伸、今週は2100ポイントで値固めか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.4%高と3週続伸した。年内に米FRBが利下げに踏み切るとの観測を背景に米株式相場が上昇。さらに28-29日に大阪で開く20カ国・地域首脳会議（G20サミット）に合わせて米国と中国が首脳会談を行い、貿易交渉が進展する見通しとなったことも好感された。指数は週明け17日に下げたものの、18日から3連騰。20日終値は5月8日以来ほぼ1カ月半ぶりの高値となった。中国の習近平国家主席の北朝鮮訪問も投資家心理を支え、関連銘柄に買いが入った。今週は心理的節目の2100ポイントで値固めか。貿易交渉の米側責任者である米通商代表部（USTR）のライトハイザー代表は、G20サミットの前に中国の劉鶴副首相と会談する意向を表明しており、米中首脳会談の地ならしとして注目される。

▼指数チャート

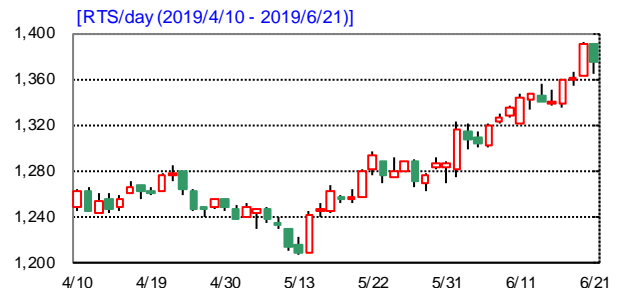


【ロシア】 RTS 指数は2.5%高と6週続伸、今週は米欧の金利低下期待で堅調か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で2.5%高と6週続伸。原油高や欧州中央銀行（ECB）の金融緩和観測、米中首脳会談への期待、ルーブル高などが好感され、約5年ぶりの高値をつけた。週明け17日は米FOMCを前に様子見が強まったが、その後はECBによる追加の金融緩和観測の高まりに加え、エネルギー需要の先細り懸念後退と米イラン間の軍事的緊張を背景とした原油高で投資家心理が改善。米国での利下げ観測の高まりを受けてドルが売られ、ルーブルが対ドルで10カ月ぶりの高値をつけたこともロシア株の支援となった。個別では電力のインターラオUES（10.3%高）、石油のルクオイル（3.1%高）、ロスネフチ（2.7%高）などが指数を押し上げた。今週は米欧の金利低下観測や米中交渉への期待で引き続き買い優勢か。

▼指数チャート



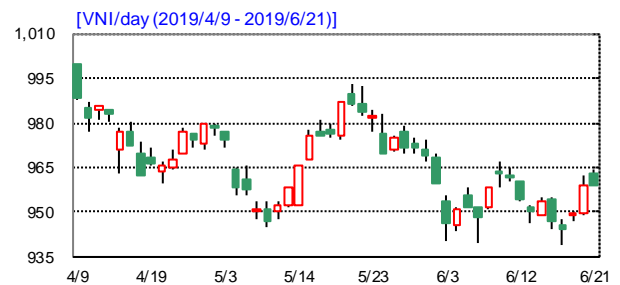
【ベトナム】 ベトナム指数は0.6%高と5週ぶり反発、今週も金融緩和期待が支援

材料

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.6%高と5週ぶりに反発。ドラギ欧州中央銀行（ECB）総裁が利下げの可能性を示唆したほか、米国でも利下げ観測が高まり、投資家心理が改善した。週初は中東や香港での政治情勢の緊張を受けてリスク回避姿勢が強まり、指数は続落。18日には約4カ月ぶりの安値を更新した。ただ、その後は世界的な金融緩和期待で投資家心理が改善。トランプ米大統領がG20サミットで中国の習国家主席と会談すると表明し、貿易摩擦緩和への期待が高まったことも買いを後押しした。20日は金融株のけん引で指数が1.0%高と東南アジア6市場で上昇率首位となった。個別ではヴィエティンバンク、ペトロベトナム・ガス、ベトコムバンクなどが寄与した。今週は金融緩和観測や貿易摩擦改善期待が引き続き支援材料か。

▼指数チャート



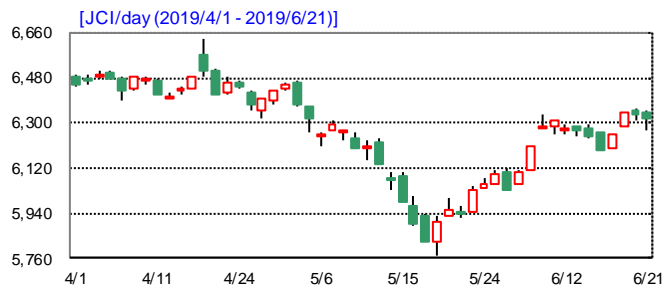


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.0%高、今週は 5 月の貿易統計に対する反応が焦点

ジャカルタ総合指数は週間で 1.0%高と 4 週続伸。週半ばまで荒い値動きが続いた。週初の 17 日は中東情勢の緊迫化や香港での抗議行動が嫌気された上、FOMC など主要国の金融政策決定会合を控えた様子見で指数は前営業日比 1.0%安と 4 日続落。一方、18 日はテクニカルな買いが入り、前日比 1.1%高と反発した。19 日は世界的な金融緩和への期待感で、指数は前日比 1.3%高と終値で約 1 カ月半ぶりに 6300 ポイントを回復。ただ、週後半は軟調で週末まで続落した。20 日に開催された中央銀行の定例会合で、政策金利は 6.0%に据え置かれている。今週は 24 日発表の 5 月の貿易統計に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート

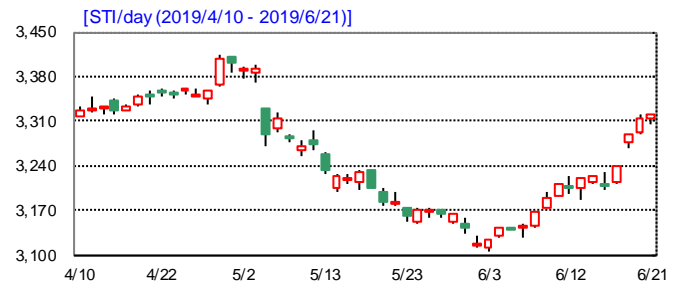


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 3.1%高、金融株が指数上昇をけん引

ストレーツタイムズ指数は週間で 3.1%高と 3 週続伸。金融緩和に向けた世界的な動きが指数上昇につながった。週初の 17 日は 5 月の非石油地場輸出が市場予想から上振れしたものの材料視されず、3 営業日ぶりに反落。一方、18 日に前日比 1.0%高と反発すると、19 日は欧州中央銀行 (ECB) のドラギ総裁による追加の金融緩和の示唆を受けて金融株が買われ、指数はさらに 1.5%上昇した。その後も好地合が続き、21 日には終値で約 1 カ月半ぶりの高値を更新している。今週は 24 日の 5 月の CPI に続き、26 日には鉱工業生産が発表される予定。外部要因では週末の米中首脳会談に向けた動向が注目される。

▼指数チャート

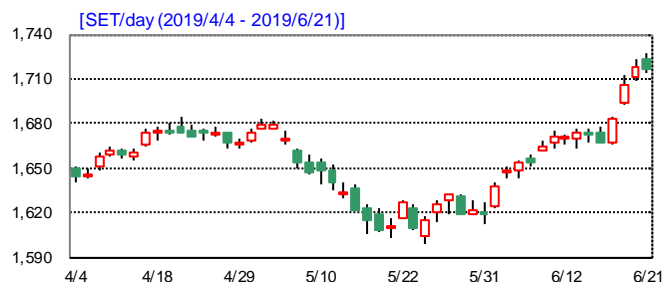


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.7%高、原油価格上昇で約 8 カ月ぶりの高値を更新

SET 指数は週間で 2.7%高と 5 週続伸。原油価格の上昇が指数を押し上げた。週初の 17 日は続落したが、18 日はエネルギー株が買われ、前日比 1.0%高と反発。19 日にはさらに 1.3%上昇し、終値で 1700 ポイントに乗せた。20 日はパウエル FRB 議長が FOMC 後の会見で、来月にも利下げを実施する可能性を示唆したことが買い材料となり、約 8 カ月ぶりの高値を更新。ただ、21 日は 5 月の輸出額 (通関ベース) が前年同月比 5.8%減と市場予想から下振れた影響で小幅ながら 4 日ぶりに反落している。今週は 25 日に 5 月の鉱工業生産が発表されるほか、26 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート

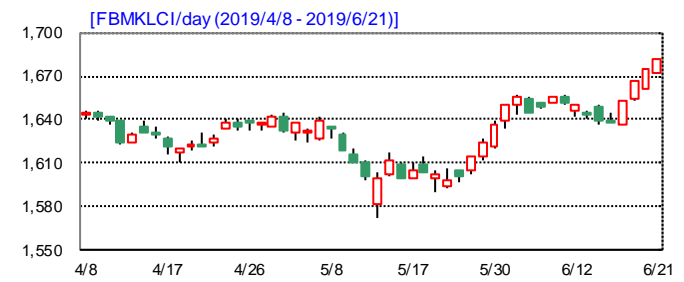


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.7%高、米利下げ観測を好感

クアラルンプール総合指数は週間で 2.7%高と 3 週ぶりに反発。国内の重要イベントが少ない中、じりじりと上値を広げた。17 日は前週末からほぼ変わらずで引けたが、18 日は米 FOMC の開催を目前に控え、早期に利下げが実施されるとの見方が広がり、東南アジア市場への資金流入に対する期待感が高まった効果で指数は上昇。週後半は為替相場で米ドル安・リング高が進んだことも買い材料となり、21 日まで 4 日続伸。21 日は終値で 3 カ月ぶりの高値を更新して引けた。今週は 26 日に 5 月の CPI が発表される予定。外部要因では米国とイランの対立を巡る地政学リスクの高まりが株式相場を左右する展開か。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。